

令和8年第3回さつま町議会定例会 一般質問通告書

令和8年9月3日（1～5番）、4日（6番～8番）

順番	(議席番号) 質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求める者
1	(1) 岸良 光廣	1 行政改革について (1) 現在の社会情勢（物価高）において、さつま町が発注を行っている工事や委託事業を安定して維持するには、経費増の問題が発生するが、町長はどのように考えているのか。 (2) 第3次さつま町総合振興計画において、国立社会保障・人口問題研究所は、令和32年の人口を10,222人と予想しているが、さつま町の人口推計では、令和17年の人口は15,163人となったことから、総合振興計画終了年度の人口を、15,000人以上維持するとしている。この目標を達成するためには、それなりの活動が必要と考えるが、どのような活動をするのか。	町 長
2	(6) 古田 昌也	1 障がい者、高齢者支援の課題について 本町はSDGs推進宣言として、誰一人取り残さない持続可能な地域社会を目指している。 しかしながら、現状では、課題が多く十分な支援が届かないことも課題だと感じている。 障がい者と高齢者も含め安心して暮らし続けられる地域づくりについて次の点を問う。 (1) 本町では、障がいと高齢者介護を抱える世帯などについて把握しているのか。 (2) 通院・通所・買い物支援など、現在の支援体制で十分だと考えているのか。 (3) 現在も取り組まれているが、町内企業や農業事業者、シルバー人材センター等とさらに連携し就労機会を増やす考えはないか。 (4) 障がいのある方の親の亡き後を見据えて、住まい・生活支援・相談支援など、将来に向けた体制をどのように考え整えていくのか。 2 コンサルティングの在り方について 本町はこれまで各種計画の策定に関して、コンサルティング会社を活用しているが、その活用方法の規定や基準はどうなっているのか。また、本町には地域おこし協力隊の任期が終わり定住している方がおり、本当の意味で地域を知っている知見者である。 今後、コンサルティングの依頼をする考えはないか問う。	町 長

順番	(議席番号) 質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求める者
		3 自衛隊誘致に関する要望活動等について 8月31日に中岳における環境調査等、各調査が終了し、様々な報告を待つ段階である。誘致が正式に決定すれば、近隣の環境整備に対する助成制度があるが、運用については一定の条件もあると聞く。また、今回の熊本地震についても自衛隊がいち早く駆け付け災害救助・支援に当たっている姿はとても頼もしく、頼りがいがあると考えている。 そこで以下の点を問う。 (1) 必要な環境整備を速やかに、スムーズに進められるよう国に対して補助金要項等の見直しについて要望する考えはないか。 (2) 現在計画されている施設以外にも、様々な施設を含め本町に誘致可能な施設があれば、複数の施設を組み合わせで大規模な誘致をする考えはないか。 (3) これまでの自衛隊の災害支援や救助活動をどのように評価しているのか。また、本町も災害が起こった時に支援して頂ける様に協定などを結ぶ考えはないか	町 長
3	(11) 有川 美子	1 薩摩農産物加工センターの今後について 町が指定管理者へ管理委託をしている薩摩農産物加工センターにおいては、管理不良のため利用者である町民より苦情・改善の声が届いている。町は施設を所有・監督する責任があるため、以下質問する。 (1) 令和8年7月6日に加工場を利用する予定の利用者（町民）が、複数の用具にカビが発生しているのを発見している。指定管理者は、どのような管理をしていたのか。併せて管理不良に対して指定管理者および所管課の対応は。 (2) 利用者から、今年、複数箇所の雨漏りに対して、バケツを置いて対処していたとの証言がある。所管課は状況等を把握していたのか。 (3) 現在、本施設において味噌をはじめとする加工作業ができず、これまで利用してきた町民が困っている状況だ。今後の薩摩農産物加工センターの維持管理についての考えは。 2 今後の男女共同参画施策について 我が町は令和4年に「希望輝くさつま町SDGs推進宣言」を宣言したが、中心となる施策や活動が分かりづらい状況だ。来年度から始まる第4次さつま町男女いきいき幸せプランの策定に合わせて、男女共同参画社会の実現を目指すことをSDGs推進の中心にできないか。 以下質問する。	町 長

順番	(議席番号) 質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求める者
		(1) S D G s 推進宣言前も含め、最も重要とする施策や活動は何か。男女共同参画社会を目指して、これまで取り組んできた施策及び評価は。 (2) 男性のための男女共同参画の視点や活動が不足していると考えerかどうか。 (3) 男女共同参画社会を目指すには、多様な視点からの学びや活動が必要だ。鹿屋市のように民間団体や個人のグループの視点で開催する講演を支援する事業を創設できないか。	
4	(8) 武 さとみ	1 住民の安心・安全と平和な暮らしを守ることにについて (1) 7月28日に発生した熊本地震の被災者避難所の様子から、我が町にはどのような対策が必要と考えるか問う。 (2) 町長と議長名で、7月13日に九州防衛局へ、7月29日に防衛大臣へ提出された「防衛施設整備に伴う環境整備等に関する要望書」に新規に追加された、「8. 施設整備の早期着工について」の項で「当地域の『地政学的』な成り立ちから・・・」の「地政学的」という文言について、町長はどのように解釈されているのか問う。 また、「9. 防衛施設の更なる整備について」の項を新規に追加されたことで、弾薬庫だけではなく「継戦能力維持」のため、さらにさつま町の軍事化が進むことで平和な暮らしが守れると思うのか、町長の考えを問う。 (3) かつての戦争（さつま町での出来事）を忘れないために、語り部の継承や常時展示等について考える必要を感じるが、教育長の考えを問う。 2 地域の活性化について (1) さつま町内の公民館では、住民の意見を吸い上げ、民主的に物事が決定される公民館運営が行えているのか、多くの地域住民から疑問を投げかけられるが、町としてどのような助言や支援をしているのか問う。（民生委員・児童委員・健康づくり推進員等についても） (2) サロンや健康づくりなどが、各公民館や公民会で行われているが、空調設備のない公民館が多く、それぞれが他の場所を探し暑さ対策をしながら行っている実情がある。このような課題について町としての取組状況を問う。 3 物価高対策について プレミアム商品券やキャッシュレス決済などで物価高対策をしたが、町民の様々な声を聞く。次に生かす改善点はないか問う。	町 長 教 育 長 町 長 教 育 長 町 長

順番	(議席番号) 質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求める者
		4 学校でのタブレット活用について 学校ではタブレットを使った学習を進めているが、様々な弊害があると聞く。これまでと今後の対策を問う。	教 育 長
5	(12) 川口 憲男	1 さつま町が目指すまちづくりについて まちの将来像を「あなたの夢にまっすぐ 新たな挑戦が未来をつくる」と定め、いろんな施策に取り組まれているが、人口増対策は、特に若者の定住対策を喫緊の課題として、町を挙げて取り組む必要がある。 (1) 他市町村にない、さつま町が誇れるまち、若者が夢を持って住みたいまちの構想は、どんなまちづくりか。また、進む方向性や町としての取組は。 (2) 一次産業で潤う我が町ではあるが、後継者の不足や若者の定住が減少する中で、いかにして住みやすいまち・さつま町の魅力を発信し、定住増に繋げるのか。 (3) 今後、地域の対策として、働き方や住居など、県と一体となった政策をはじめ、行政の真摯な取り組みが必要と思う。特に農業・商業では特色ある生産物、二次加工品の構築が必要である。圃場整備は進んだが、次の一手はいまだ打てていない。行政が先導し進める考えはないか。	町 長
6	(3) 豎山 秀樹	1 令和8年産米の価格下落に対する生産者支援策について 「令和の米騒動」を発端とする価格高騰から一転、現在はコメ余りや値下がりが続いている。過剰生産によるコメ価格下落を懸念する高市政権は、増産方針を転換「需要に応じた生産」を掲げているが、消費者と生産者の双方が安心できる生産体制は見通せていない。本町においてもコメの出穂時期を迎え、今年の価格についての動向が非常に注視されている中、普通期の価格形成に指標となる県内産の早期米については、昨年の「概算金」より2割から3割安く提示されている。収入減となるコメ農家は経営圧迫が懸念されるが、その支援策について町長の見解を問う。 2 本町の農業政策における現状と課題について 本町の農業は、全耕地面積の約68.8%を占める水田を生かし、水稻と畜産、施設園芸、茶などを組み合わせた複合経営が特徴である。しかし、高齢化の進行による経営体の減少や不安定な海外情勢による生産資材の高止まりなど、農林業の経営は厳しい状況に直面している。このような状況下、本町における農業政策の現状と課題及びその解決策について次の点を問う。 (1) 兼業農家の支援及びその事業継承に対する支援策について	町 長

順番	(議席番号) 質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求める者
		本町における地域農業の担い手には、認定農業者だけではなく兼業農家の割合も多くなっている。しかし、本町においては、兼業農家への支援はなく、また、兼業農家の後継者による事業継承に対しても全く支援がない状況である。今後も地域の担い手として、貴重な農家であることから支援策を創設できないか町長の見解を問う。 (2) 農畜産業の高温対策について 記録的な高温が相次ぎ農畜産業にも打撃を与えている。資材価格が高騰する中で、高温対策の支出は大きな負担となり経営をさらに圧迫している。農家が生産を維持し生産量や品質を最大限に確保できるよう充実した支援策が必要と考えるが町長の見解を問う。 (3) 将来の稲作を守るための水対策について 今夏は、異常気象的な渇水状態が続き、水田が枯渇する状況がいたるところで発生している。町として、地区ごとの水源確保に向けた施策をどう構築し、将来にわたって水田をどのようにして守り抜くのか町長の見解を問う。 (4) 水道事業における農業用専属利用者への支援策について 開発地で果樹や園芸作物を栽培される生産者より、場所によっては水圧が慢性的に低く、常に加圧ポンプの活用が必要との報告がある。そのため、平地の栽培よりコストが高く、同じ基準での使用料では不公平感があるとの声もある。特に、耕作条件の悪い土地での利用者や農業用専属で利用される農家への支援措置はできないか町長の見解を問う。 3 豊富な水資源を活用した小規模水力発電の可能性と地域の未来について 本町は、川や用水路、農業用水など比較的豊富な水資源に恵まれており、地域の特性を生かした再生可能エネルギーの導入を検討する価値がある。その中でも小規模水力発電は、太陽光発電と比較して、天候変動の影響を受けにくく、安定した発電が期待できる電源として注目されており、地域活性化や防災力向上の面からも大きな意義があると考ええる。本町は、自然豊かな地域であり水資源にも恵まれていることから、こうした水資源を将来にわたって地域の財産として活用するため、小規模発電の調査、導入可能性を模索し、地域主体による持続的なエネルギー政策の実現に向けて取り組むべきと考えるが町長の見解を問う。	町 長

順番	(議席番号) 質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求める者
7	(4) 徳留 和樹	1 農業を支える体制について 本町の農業は基幹産業というものの、様々な課題について、危機感やスピード感に欠けているように感じる。昨年9月議会でも問うた渇水対策は行われたのか、また国や県などと連携強化し、稼げる安定的な農業の実現に向けて次の点を問う。 (1) 渇水対策に関し、対策本部の設置状況、現状の把握状況、及び今後の支援策について町の見解は。 (2) 米価の大幅な下落が始まっている現状を受け、本町として今後の対策及び対応をどのように考えているか。 (3) 新しい就農者及び兼業農家等が農業を開始する際の、指導支援や品目ごとの経営指標を示すことは可能か。また、経営面積拡大に向けた現行の取り組みに対する認識と今後の方向性について問う。 2 観光や交流人口増に向けた取り組みについて 本町には多様な施設や豊富な環境資源が存在する。これらに関するPRやイベント等を強化することで、交流人口の拡大（または観光客の誘致促進）を図れると考えるが、次の点について見解を問う。 (1) 総合振興計画に掲げる「らしさを生かした観光の活性化」及び「広域連携での交流促進」について、具体的にどのような計画があるのか。 (2) 本年度の米価下落に対する認識と、高単価での販売に向けた具体的なプロモーション実績について問う。また、地域ブランド「薩摩のさつま」を活用し、さらなる付加価値を創出する独自の販売ルートを開拓する考えはないか。	町 長
8	(2) 上別府ユキ	1 災害時における避難所のトイレ環境について 熊本地震などの大規模災害では、避難所におけるトイレ不足や衛生環境、プライバシーの確保が大きな課題となった。 本町においても、災害時に避難所となる公共施設について、避難者の健康と尊厳を守るため、平時からトイレ環境を整備しておくことが必要である。 そこで、以下について町長の見解を問う。 (1) 指定避難所における、想定避難者に対するトイレの必要数と現状をどのように把握しているか。 (2) 断水等により、既存トイレが使用できなくなった場合に備え、携帯トイレ、簡易トイレ、仮設トイレ等をどの程度確保しているか。 (3) 各指定避難所のトイレの不足状況を把握し、計画的に改善・整備していく考えはないか。 (4) 高齢者や障がい者、女性等への配慮や個室・プライバシーの確保など、ジェンダーの視点を含めた避難所整備をど	町 長

順番	(議席番号) 質 問 者	質 問 事 項 ・ 要 旨	答 弁 を 求める者
		のように考えているか。	